

会社名 株式会社 シーボン
代表者名 代表取締役社長 執行役員 崎山 一弘
(コード番号：4926 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役 執行役員 管理本部責任者 瀧 礼江
(TEL：03-3404-7501)

第2四半期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期第2四半期累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期第2四半期累計期間 連結業績予想と実績値の差異（2022年4月1日～2022年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	4,885	115	113	△99	△23.25
実績値（B）	4,297	△62	△52	△309	△72.36
増減額（B－A）	△587	△177	△165	△210	
増減率（％）	△12.0	－	－	－	
（ご参考）前期実績 （2022年3月期第2四半期）	4,683	116	191	189	44.36

2. 差異の理由

売上高につきましては、中国向けの大規模な製品受注を当第2四半期に見込んでおりましたが、上海のロックダウンにより、中国での販売プロモーションが半年程度実施できなくなった結果、第3四半期以降の製品受注にずれ込むことになりました。また、国内の直営店舗につきましては、イベントでの新規集客活動においてはコロナ過以前の水準へ回復傾向となり、また、WEB広告による新規集客数に関しても、SNSでのサロンにおける施術体験や製品の良さの発信強化などにより、新規の売上高は着実に向上し、既存の来店顧客数は新規契約者数の増加に伴い増加傾向に転じ始めているものの、2022年3月期の長期的な行動制限が尾を引き、第2四半期累計期間の既存の来店顧客数は前年同期と比べ97.9%となりました。更に、来店頻度が減少したことで購入単価が低下し、前回発表予想を下回る結果となりました。

各段階利益につきましては、販売費及び一般管理費の合理化に努め、売上高の減少に伴う売上原価、販売手数料等の売上変動費の減少があったものの、売上高の減少が大きく影響したことで、前回発表予想を下回る結果となりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、中国向けの製品受注が第3四半期以降にずれ込んだこと、直営店舗における新規の売上高が着実に向上していることを踏まえ、2022年5月12日に公表いたしました予想数値から変更はございません。